
VESTAX

MR-66

マルチトラック・レコーダー

取扱説明書

VERSION 1.0, NOV. 1989
COPYRIGHT 1989 VESTAX CORPORATION

目次

ご挨拶	2 頁	ビンボン	11 頁
安全上の御注意		外部ミキサーによるシステム拡張	12
使用上の御注意		録音	
設置上のご注意		再生	
アフターサービス		ビンボン	
各部の名称と機能	4	エフェクト	
基本操作	9	ブロック図	13
録音		主な仕様	14
再生			
応用例			
パンチ・イン／アウト	10		
ミックス・ダウン			

ごあいさつ

このたびはベスタクス MR-66 パーソナル・マルチトラック・レコーダーをお買い上げ下さいまして、まことにありがとうございます。

本機は6トラックのカセット・レコーダーですが、本体だけでも録音からミックス・ダウンまでできるように、トリムのついた入力部とモニターとしてテープ出力ミキサーを内蔵しています。また、外部ミキサーを使えば、さらに本格的なレコーディングが可能です。

本機に機能を最大限に発揮させるとともに、末永くご愛用いただくためにも、ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、正しい取扱方法をご理解の上、ご使用下さい。

安全上のご注意

- 本機は交流（AC）電源100V専用機ですので、直流電源や他の異なる交流電源に直接つないで使用することはできません。
 - 長時間使用しないとき、また外出時には電源プラグを必ずコンセントから抜いておいて下さい。
 - 電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。無理にコードを引っばって抜くとコードを傷めます。
 - 本機外装のカバーを取り外して内部に手を触れないで下さい。この結果生じた損傷、感電や火災については当社はその責任を負いません。
 - 本機内部に水やその他の液体、可燃物、金属類などを入れないようにして下さい。感電や故障の原因となります。
 - 水などに濡れた手でプラグを持ってコンセントを抜き差ししないで下さい。感電することがあり、大変危険です。
 - ビニールなどの被膜が切れたりこすれたりして芯線が露出している電源コードをそのまま使用すると感電や火災の原因となります。
-

使用上の御注意

- レコーディングが正しく行われるよう、ヘッド部のクリーニング、消磁などのメンテナンスを定期的に行ってください。
- 本機のリコーダー部はテープスピードが4.8 cm/sec及び9.5 cm/secでクロームテープ専用となっています。テープはC-90タイプをおすすめします。
- マルチトラック・レコーディング時は片道録音、片道再生ですので、誤消去に御注意下さい。
- 本機は DBXノイズリダクション・システムを使用していますのでドルビーB ノイズ・リダクションで録音されたテープは正しく再生できません。
- カセットテープはゴミ、ホコリの多い場所、高温、多湿の場所、強い磁場を発生している場所での使用、保管は避けて下さい。
- ラジオやレコードから録音したものは個人的に楽しむなどのほかは、著作権法上、無断で使用する事はできません。

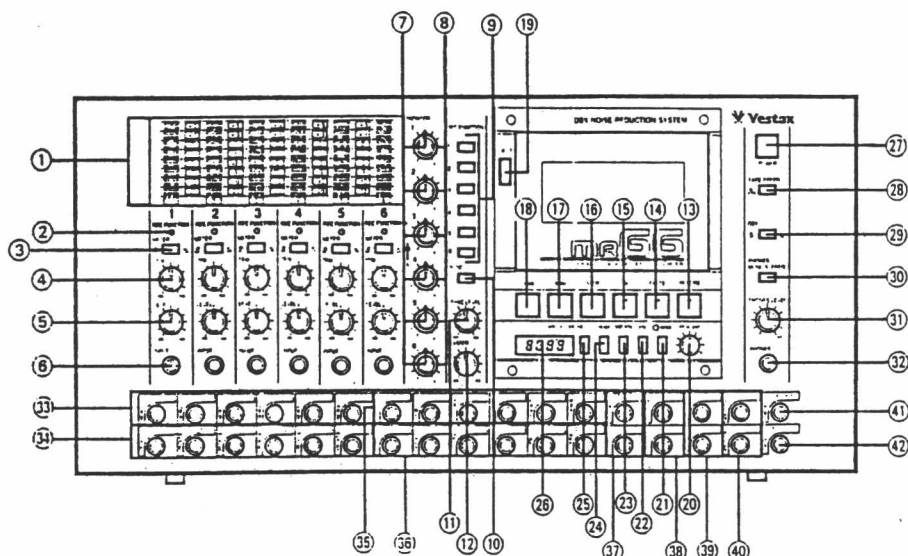
設置上の御注意

- 本機は常温（5～35度C）、通風が良く、電源電圧の変動が少なく、頑丈で平らな場所に設置して下さい。
- ホコリはテープやヘッドの大敵です。湿気もテープによくありません。
- 電源電圧の変動があるとテープ走行等に問題がでますので、ご注意下さい。
- アルコールやシンナー等の溶剤で塗装面をふかないで下さい。塗装がはげる場合があります。

アフター・サービス

- 本機には保証書を添付しております。所定事項を記入してお渡しいたしますので、記載内容を御確認の上、大切に保管して下さい。保証書に御購入店印の無い物は無効となりますので御注意下さい。
- 保証期間中は、保証書の記載内容により当社サービスが修理を承ります。御購入店経由で修理にお出し下さい。
- 保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理などについてご不明の場合はお問い合わせの販売店、または当社サービスにご相談下さい。

各部の名称と機能



入出力部

〔1〕 LEDピークレベル・メーター METER (LED Peak Level Meter)

〔3〕のメーター切り換えスイッチにより選択された各トラックごとの入力、またはプレイバックのレベルをLEDにより表示します。

録音の場合、0 dBのLEDを目安として、このLEDが点滅するように〔トリム〕と、〔5〕レベルで調整してください。これが点灯状態となり±5 dB LEDが頻繁に点滅すると入力オーバーです。また0 dB LEDが全く点滅しない状態ですと、入力が小さ過ぎて、再生時のS/N比が悪くなります。ご注意ください。

〔2〕 録音機能表示LED REC FUNCTION LED

〔9〕録音機能（レックファンクション）ボタンを押すことにより、押したトラックが録音待機状態となり、そのトラックのLEDが点滅します。〔15〕プレイボタンと〔13〕録音ボタンを押すと、テープが走行し録音を開始します。

〔3〕 メーター切り換えスイッチ METER

〔1〕メーターと表示内容をきりかえるスイッチです。表示内容は以下のとおりです。

- INPUT — 録音用の入力表示です。各トラックへの入力レベルを表示します。
- TAPE — テープ再生用です。各トラックへの入力レベルを表示します。

〔4〕 トリム TRIM

入力部の標準ジャック〔6〕から入力する信号のレベルを適切なものに調整します。左側のMINの状態で行線入力、右側のMAXの状態で行マイク入力に対応します。

〔5〕レベルとのコンピで最適入力ができるように調整します。通常〔5〕レベルを7～8に合わせた後で、トリムを動かして〔1〕メーターで説明した状対になるように調整すると最も良い録音ができます。

〔5〕レベル LEVEL

〔4〕トリム同様入力部の標準ジャック〔6〕から入力する信号のレベルを適切なものに調整します。またLINE INからのレベルも同様に調整できます。

〔4〕トリムとの関連についてはトリムの説明を参照してください。

〔6〕入力端子 INPUT 1-6 (mono, 1/4" standard phone jack)

楽器、マイクなどを入力する標準ジャックです。

録音・再生部

〔7〕レベル LEVEL 1-6

2連ノブの内側はテープ各トラックの再生レベルの調整ノブです。右に回すほどレベルが大きくなります。MAX状態で規定出力となりますので、なるべくMAXに近いところで使用してください。

〔8〕パン PAN 1-6

2連ノブの外側はテープ各トラックのパンポットになっています。マスター出力のバス・ラインのLとRに振り分ける量を調整することにより、音像の定位を決定します。

録音とシンク

〔9〕レック・ファンクション RECORD FUNCTION 1-6

このボタンを押すと、押したトラックが録音待機状態になります。この時〔2〕録音機能LEDが点滅します。

〔2〕録音機能LEDの説明をもう一度ご覧になってください。

〔10〕シンク・スイッチ SYNC SW

このスイッチはテープ再生時トラック6にのみ働きます。録音したFSK信号によりMIDIシンクを行う場合、このスイッチを押すと安定したシンクが可能になります。

□MIDIシンクの方法

まずMIDI-FSKコンバーターを使いトラック6にFSK信号を録音します。この時MR-66本体のDBXがオフであることに注意して下さい。入力端子は〔6〕入力端子のトラック6を使用して下さい。

FSK信号の再生にはシンク・スイッチをオンにし、テープ出力端子〔34〕を使用して下さい。シンクレベル〔11〕でレベルを調整し誤動作が起こらないポイントを選びます。

〔11〕シンク・レベル SYNC LEVEL

MIDIシンク演奏用のシンク信号の調整に使います。上で述べたようにトラック6を使用しシンクスイッチ〔10〕をオンにした状態で有効です。

〔12〕マスター・レベル MASTER LEVEL

マスター出力の調整用ノブです。右に回すほどレベルが大きくなります。通常はMAX状態でお使い下さい。

デ ッ キ 部

[13] 録音ボタン REC (Record Button)

このボタンとポーズ・ボタンを同時に押すと本機は録音待機状態となります。その後再生ボタンをおすと、レック・ファンクション・ボタンを押したトラックの録音が始まります。

[14] ポーズ・ボタン PAUSE (Pause Button)

このボタンを再生または録音状態で押すとテープ走行が一時的に止まります。再び押すとテープが走行を開始します。

[15] 再生ボタン PLAY (Play Button)

このボタンを押すと再生状態になります。

[16] 停止ボタン STOP (Stop Button)

このボタンを押すとテープが止まります。

[17] 早送りボタン FF (Fast Forward Button)

このボタンを押すとテープが早送りされます。

[18] 巻き戻しボタン REW (Rewind Button)

このボタンを押すとテープが巻き戻されます。

[19] エジェクト EJECT Button

このボタンを押すとテープ・コンパートメントが開くので、テープを取り出したりセットしたりすることができます。

[20] ピッチ・コントロール PITCH CONTROL (Knob)

±15%の範囲でテープ速度を調整します。この時ピッチも変化します。センター・クリックで±0となっています。

このノブはプッシュ式になっており、ピッチを決めて押し込んでおくと、誤ってピッチを変えてしまうことはありません。

[21] メモリー・スイッチ MEMO (MEMORY Switch)

カウンターが数字表示の状態でのスイッチを押すと、本機はその数字を記憶し、表示部メモリーのドットが点滅します。点滅状態は“メモリー・リターン・ストップ”であることを表示し、[18] 巻き戻しボタンを押すと、テープはメモリーされた数字のやや前で止まります。[22] リターン・モード・スイッチを押すとドットは点灯状態となります。この状態は“メモリー・リターン・スタート”で、[18] 巻き戻しボタンをおすと、メモリーされた数字のやや前で止まり、自動的に再生を始めます。

[22] リターン・モード RTN MODE (Return Mode Selector Switch)

メモリー・リターンまたはゼロ・リターンのリターン・ストップとリターン・スタートを選択するスイッチです。

リターン・ストップではそれぞれの表示でドットが点滅し、リターン・スタートでは点灯します。

[23] ゼロ・リターン ZERO RTN (Zero Return)

このボタンを押すと本機はゼロ・リターン状態となり、表示部のドットが点滅（ゼロ・リターン・ストップ）、または表示部のドットが点灯（ゼロ・リターン・スタート、切り換えは[22] リターン・モード・スイッチを使用）します。メモリー同様、カウンターが数字表示の時のみ有効です。

り換えは〔22〕リターン・モード・スイッチを使用) します。メモリー同様、カウンターが数字表示の時のみ有効です。

〔24〕リセット・ボタン RESET

このボタンを押すと表示の数字が解除され0となります。

〔25〕テープ・カウンター表示切り換えスイッチ TAPE COUNTER

このボタンを押すとテープ・カウンターの表示が切り替わります。数字または時間が選択できます。時間表示はピッチ・コントロール〔20〕がセンター状態を基準としており、ピッチ・コントロールがセンターにないときは正確な時間とはなりません。録音の際は必ずセンター位置にセットしてください。

〔26〕テープ・カウンター TAPE COUNTER

4桁の数字または分と秒のタイムでテープの走行を示します。

〔27〕電源スイッチ POWER/POWER LED

このスイッチを押すと電源が入り、LEDが点灯します。

〔28〕テープ速度切り換えスイッチ TAPE SPEED

テープ速度を標準 (4.75cm/s)、ハイ (9.5cm/s) から選択できます。

〔29〕DBX オン/オフ・スイッチ DBX ON/OFF

内蔵の DBXノイズ・リダクションのオン、オフ・スイッチです。DBX をオンで録音したテープは必ずオンで再生してください。

〔30〕ヘッドホン・ステレオ/モノ切り換えスイッチ PHONES STEREO/MONO Select Switch

MR-66 の本体からモニター信号を取り出す時の、ステレオとモノの切り換えスイッチです。録音の都合上、モノの方が便利な場合は、モノにしてお使い下さい。

〔31〕ヘッドホン・レベル PHONES LEVEL

モニター用のヘッドホン・レベルの調整をします。右に回すほど大きくなります。

〔32〕ヘッドホン端子 PHONES JACK (stereo, 1/4" standard phone jack)

モニター用のステレオ・ヘッドホンを接続して下さい。

〔ご注意〕

ヘッドホンのインピーダンスは8オーム以上のものをお選びください。8オーム以下の場合はさまざまな問題が起こる可能性がありますのでご注意ください。

パッチベイ部

〔33〕ライン入力端子 LINE IN 1-6 (mono, 1/4" standard phone jack)

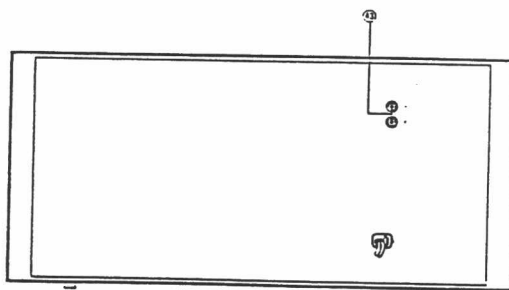
各トラックへのライン入力 (-10dB) 用ホン端子です。この端子に接続された入力信号は直接各トラックに入力されます。

〔34〕テープ出力端子 TAPE OUT 1-6 (mono, 1/4" standard phone jack)

各トラックからのテープ出力用ホン端子です。

外部ミキサーを接続してMR-66 をお使いになる時は主に〔33〕ライン入力と〔34〕テープ出力を使用することになります。

- [36] 補助入力端子 AUX RETURN 1～6 (mono, 1/4" standard phone jack)
 [35] 補助出力端子 1～6 から外部エフェクトに信号を再び本体に受けるための端子です。
- [37] マスター用補助出力端子 L/R M/O SEND L/R
 (mono, 1/4" standard phone jack)
 テープ出力マスターの L/R バスに外部エフェクトを使用するための出力端子です。外部エフェクトの入力に接続して下さい。
- [38] マスター用補助入力端子 L/R M/O RTN L/R
 (mono, 1/4" standard phone jack)
 [37] 補助出力端子 L/R より出力され外部エフェクトにより加工された信号を本体に受ける端子です。外部エフェクトの出力と接続して下さい。
- [39] マスター出力端子 L/R M. OUT L/R
 (mono, 1/4" standard phone jack)
 マスター用の出力端子です。外部デッキの入力に接続し、ステレオ・マスターテープを作る時に使用します。この端子からは、テープ再生音のみ出力され、入力信号は出力されません。
- [40] モニター出力端子 L/R MON OUT L/R
 (mono, 1/4" standard phone jack)
 モニター信号、[32] ヘッドフォン端子からの出力信号と同じ信号がラインレベルで出力されます。[31] フォンズレベルで出力が可変でき、パワードモニター、スピーカー等へ接続して下さい。
- [41] パンチ・イン/アウト用リモート・ジャック PUNCH IN/OUT Remote jack (6.3 ϕ /Standard Quarter Inch Phone Jack)
 ベスタクス FP-1 等のリモート・コントロール用フットスイッチを接続し、パンチイン/アウトをフットスイッチで行うためのジャックです。
- [42] ポーズ・オン/オフ用リモート・ジャック PAUSE ON/OFF Remote jack (6.3 ϕ /Standard Quarter Inch Phone Jack)
 ベスタクス FP-1 等のリモート・コントロール用フットスイッチを接続し、ポーズのオン/オフをフットスイッチで行うためのジャックです。
- [43] 出力端子 L/R OUTPUT Jack L/R (RCA PIN JACK)
 マスター用の出力端子です。外部デッキの入力に接続し、ステレオ・マスター・テープを作る時に使用します。この端子からは、テープ再生音のみ出力され、入力信号は出力されません。



基本操作

1. 録音

各部の名称と機能をひととおりお読みいただいて理解していただけたと思います。そこでこれから録音の仕方について説明します。例としてトラック1にエレキ・ギターを録音する方法について説明します。

(1) MR-66 に録音のため使用するカセット・テープを正しく装着して下さい。

(2) 各スイッチ・つまみ類を次のようにセットします。

- | | |
|---------------------|--|
| [POWER] スイッチ | → ON |
| [METER] 切り換えスイッチ | → INPUTにします。 |
| [LEVEL] ノブ | → 7～8にします。 |
| [TRIM] ノブ | → メーターを見ながら入力し、最適レベルになるよう調整します。エレキ・ギターの場合、センターより右側になります。 |
| [REC FUNCTION] スイッチ | → 録音したいトラック、この場合はトラック1を押すと [REC FUNCTION] LED が点滅します。 |

(3) もう一度入力レベルを確認めます。ギターを実際に演奏してメーターが適切なレベルを示すかどうか見ます。

(4) [PAUSE] ボタンと [REC] ボタンを同時に押します。このとき [REC FUNCTION] LED が点灯状態となります。次に [PLAY] ボタンを押すと録音が始まります。

(5) 録音が終わったら [STOP] ボタンを押してテープの走行を止めます。

2. 再生

(1) MR-66 の再生に使用する録音済みのカセット・テープを正しく装着して下さい。

(2) 各スイッチ・つまみ類を次のようにセットして下さい。

- | | |
|---------------------|-----------------|
| [POWER] スイッチ | → ON |
| [METER] 切り換えスイッチ | → TAPEにします。 |
| [REC FUNCTION] スイッチ | → 全トラックOFFにします。 |

(3) [PLAY] ボタンを押すとテープが走行して再生が始まります。各スイッチ・つまみ類は次のように調整下さい。

- | | |
|-----------------|-------------------------------------|
| [MONITOR LEVEL] | → 各トラックのバランスを取りながら、好みの音量にセットします。 |
| [MONITOR PAN] | → 左右のチャンネル・バランス、定位を見ながら、お好みにセットします。 |
| [MASTER] | → MAXにセットします。 |

(4) 再生が終わったら [ストップ] ボタンを押してテープ走行を止めてください。

応用例

1. パンチ・イン／アウト

パンチ・インは再生動作中に任意のトラックを録音状態にすることを言います。MR-66 の 6トラックのうちのあるトラックを部分的にやり直したり、入れ替えたりする時に行います。これとは逆に、録音動作中に任意のトラックを再生状態にすることをパンチ・アウトと言います。

リモート・ペダルでパンチ・イン／アウトを行う場合

別売のパンチ・イン／アウト・リモート・ペダルFP-1をMR-66 のパンチ・イン／アウト・ジャックに接続して使用すると、楽器演奏で両手がふさがっていたとしても、足でパンチ・イン／アウト操作を簡単に行うことができます。

- ①まずリモート・ペダルFP-1をMR-66 のパンチ・イン／アウト・ジャックに接続してください。
- ②次にこれからパンチ・インしたいトラックの〔REC FUNCTION〕スイッチを押すと〔REC FUNCTION〕LED が点滅します。
- ③〔REC 〕ボタンと〔PLAY〕ボタンを同時に押してテープを走行させて下さい。
リモート・ペダルが接続されていると上記録音状態にしても〔REC FUNCTION〕LED は点滅を続け、録音はされません。
- ④途中でペダルを踏むと録音が始まり（パンチ・イン）、再び踏むと再生に戻ります。（パンチ・アウト）

MR-66 本体だけでパンチ・イン／アウトを行う場合

- ①修正したいトラックの〔REC FUNCTION〕ボタンを押し込み録音待機状態にしておきます。
- ②修正したい場所で〔PLAY〕と〔REC 〕のボタンを同時に押し（パンチ・イン）、終了する時は〔PLAY〕ボタンのみを押し直します。（パンチ・アウト）

この他にも本体のみでパンチ・イン／アウトをする方法がありますが、ノイズが録音される可能性がありますのでおすすめ出来ません。

2. ミックスダウン

ミックスダウンはトラック・ダウンとも呼ばれ、マルチ・トラックで録音したテープを通常2トラックのステレオ・マスター・テープにすることを言います。

ここでは MR-66のアウトプット・ライン・ミキサー（モニター・ミキサー）を使ってミックス・ダウンする方法を説明します。

- (1) ミックス・ダウンに使用する録音済みのカセット・テープを MR-66に正しく装着して下さい。マスターデッキに録音のため使用するカセット・テープを正しく装着して下さい。

(2) 各スイッチ・つまみ類を次のようにセットして下さい。

- | | |
|------------------|---------------------------------------|
| [METER] 切り換えスイッチ | → TAPEにします。 |
| [LEVEL] ノブ1-6 | → 各トラックの音量バランスをとります。 |
| [PAN] ノブ1-6 | → 各トラックの定位を決定します。 |
| [MASTER] | → MAX にセットします。 |
| [OUTPUT] | → マスター出力L/Rからの信号をマスター用デッキの入力端子に接続します。 |

(3) MR-66 を再生し、マスター・デッキに録音します。

3. ピンポン録音

MR-66 本体だけでも、ラインアウト・ミキサー（モニター）部とパッチベイ部を使いケーブルで接続することによりピンポン録音が可能です。

ここではトラック1, 2, 3, 4, をトラック5, 6にステレオ・ピンポン録音する例で説明しましょう。

- ①ライン・ミキサー（モニター）の〔LEVEL〕を適当なレベルに調整して下さい。
- ②ライン・ミキサーの〔PAN〕はトラック1, 3をLに, トラック2, 4をRに振りわけます。
- ③マスターの出力のLを〔LINE IN〕のトラック5に, Rをトラック6にケーブルを使って接続します。
- ④トラック5を録音とします。〔REC FUNCTION〕ボタンはトラック5, 6を押し込んでONとします。この時トラック1～4のボタンが押し込まれていると録音が消されてしまいますので、セーフ状態にあることを確認してください。

これでピンポン録音ができます。

- ☐ テープを標準速度で走行させ、入出力のレベルをかなり上げた限られた条件でMR-66 を使用した時に発振が起こることがあります。その場合はレベルを調整して下さい。

RMC-88, 8000 によるシステム拡張

MR-66 は単体でも独立使用できるよう設計されていますが、ミキサーを組み合わせることによって可能性が拡張されるユニークな6トラック・レコーダーです。パッチベイ方式で豊富な入出力をフロントに装備しているため、パッチングに間違いがおこりにくく、かつ容易に行えるという利点があります。

しかし、8IN 8OUTのレコーディングミキサー、Vestax RMC-88, RMC-8000 を使用すると、パッチケーブルの差し替えなしに、ピンポン録音、ミックスダウン等が行なえる上、EQ, エフェクト処理能力も申し分なく、よりパーソナルレコーディングの世界が広がることでしょう。

下記にこの2機種のカキサーを接続した時の使用例を簡単に説明しますので参考にして下さい。

(1) 録音

ミキサーの入力に楽器等を接続し、ミキサーのチャンネルアウト／グループアウトをMR-66 の入力したいトラックのLINE INPUTに接続して、ミキサーのチャンネルアウトSWをONにして下さい。

又、いくつかの入力をまとめてひとつのトラックに録音する時はミキサー入力チャンネルのパンをLEFTまたはRIGHT どちらかに振り切り、グループA又はBにまとめアウトブットセレクトSWで MR-66の任意のトラックを選択してください。

(2) 再生

MR-66 のTAPE OUTをミキサーのTAPE IN に接続して下さい。MR-66 のラインミキサー(モニター)の代わりにRMC-8000, 88を使うことになります。

ミックス・ダウンはこの接続でミキサーのL/R 出力からマスター・デッキのL/R 入力に接続して行って下さい。

(3) ピンポン

ピンポンは上記(1), (2)の応用です。ピンポンさせたい元のトラックのテープ・アウトからミキサーの入力に接続し、ミキサーのグループA, Bを使ってMR-66 のピンポンする先のトラックへ出力します。

(4) エフェクト処理

AUX 1, 2のセンド端子から外部エフェクトに入力し、空いているチャンネル7, 8に戻しております。こうすることによりMR-66 をミックス・ダウンする時に、デジタル・リバーブなどで音に広がりを持たせることができます。

MR-66 主な仕様

メカ部特性

テープ	コンパクトカセット C-30~C-90, 70us EQ (Type II)
トラック形式	6-トラック, 6チャンネル (1方向)
ヘッド形状	2ヘッド (録音・消去/再生)
モーター	1 FGサーボコントロールDCキャプスタン・モーター 1 DCリール・モーター
テープ走行速度	4.75cm/s $\pm 1\%$, 9.5cm/s $\pm 1\%$, 切り換え可
ワウ・フラッター	0.04% (NAB weighted)
早巻時間	Approx. 110seconds for c-60
寸法	482 $\times$ 220 $\times$ 222 mm (WHD)

電機的特性

入出力部

MIC / LINE入力	6.4 (1/4") ホーン・ジャック
入力インピーダンス	470k Ω
規定入力レベル	-70 to +15dBV (0.3mV-5.6V)
Line入力	6.4 (1/4") ホーン・ジャック
入力インピーダンス	220k Ω
規定入力レベル	MAX 15dB (5.6V) MIN -20dB (0.1V)
Line出力	6.4 (1/4") ホーン端子
出力インピーダンス	10k Ω
規定出力レベル	-10dBV
Headphone 出力	6.4 (1/4") ホーン端子
負荷インピーダンス	8 Ω
最大出力レベル	100mW (8 Ω)

レコーダー部

レコードチャンネル	6 (6同時)
再生チャンネル	6
バイアス周波数	100kHz
イコライゼーション	3180s + 35s
ノイズ・リダクション	DBX TYPE II

総合特性

周波数特性	20Hz-18kHz ± 3 dB
T.H.D	0.05% (1kHz nominal level)
S/N比	95dB (WTD, with DBX)
電源	AC100V

*DBX MANUFACTURED UNDER LICENSE FROM DBX /CTI.

仕様は本マニュアル制作時の企画/目標です。実際の仕様と異なる場合は製品に準ずるものとさせていただきます。また、製品の品質の向上その他の理由により、予告なく仕様の変更をさせていただきます。

Specifications are right at the time of printing. Vestax reserves right to change specifications for product improvement without prior notice.

ベスタクス株式会社

〒154 東京都世田谷区上馬2-37-1

TEL : 03 (3412) 7011, FAX : 03 (3412) 7011

COPY RIGHT 1989 VESTAX CORPORATION PRINTED IN JAPAN
